

【守護神とは】

- 人間を護まもって下さっている国津神くにつかみから現津神あきつかみまでの神々です。
通常は複数の人間を一名の神が掛け持ちして護まもって下さっていますが、自分の分魂が地上に降臨している場合は、その人間を単独で護まもって下さっています。
神の魂を持った人間から見た場合は、自分の本体という訳です。
- 基本的には自らの正体を明かすことはありません。
また、他人の守護神を明かすことも、特別に『神』のお許しを戴いただかない限り、許されていません。

“私は「〇〇神」だ！”などと大物の神の御名を語る存在は、大部分は動物霊の狐（人間が転生した）ですが、希に人霊もいます。
その人霊は、熱心に宗教を信仰していた者の子が神を名乗ることがあります。

【龍神とは】

- 地上を人が住める環境に整れたいえる為に、地を固める役として活躍されました。
過去の地上に存在した恐竜の霊体ではありません。

★ 龍神も色々な大きさの龍がいます。
胴体が小さいから子供の龍という訳ではありません。

- 金龍きんりゅう・・・霊的れいてき
- 黒龍こくりゅう・・・暴力的
- 赤龍せきりゅう・・・共産的・エロ・グロ
- 白龍はくりゅう・・・神の使い
- 青龍せいりゅう・・・水の統御とうぎよ

※平成21年5月17日までに龍神は全員国津神に神上がりし、龍神界は消滅しました。

【龍神が犯した罪】

- 言う事を聞かない人間や無礼を働いた人間を殺したり、大怪我かいこくさせて戒告したことになる三つの罪。
※関連【男性の御神霊が犯した罪】《62P》
 - 『神』のお身体からだの一部を傷つけた罪
 - 天国文明の建設要員を減らした罪
 - 越権行為の罪⇒人間に対する戒告の理由は、龍神が住んでいた古井戸を無断で壊した事などです。
- 強大な力を持っていることで慢心して、自分より格上の神に対して歯向かった罪。
⇒不動明王の配下で御役を勤める国津神によって“龍”の名が付くお寺の本堂の下や、神社の池などに封印されました。